Vol.127　賀詞交歓会の挨拶より　（平成20年1月10日）

皆様　改めて新年明けましておめでとうございます。

昨年中は皆様に大変なご支援とご協力を賜り、無事大過と申しあげますよりも、すべて大成功裡に過ごさせていただきましたことを、厚く感謝を申し上げ、深く御礼を申し上げる次第であります。ありがとうございました。

新しい年と言うのはいつも夢と期待を持たせてくれる半面に、未だ思えぬものへの不安も与えてくれるものであります。私も役目柄、仲間たちから今年はどう言う年だろうと問われる事が多くあり、先見性もまた問われる思いであります。

昨年末、世界的には原油が1バレル100ドルとなり、日本の高度成長を支えた頃の10倍となりました。こうしたエネルギー資源、鉱産物、希少金属、そして穀物、食糧は世界的な争奪戦争となり、価値は暴騰しております。しかし市場競争経済の中にあってはすべて売価格へと上乗せできず、中小零細、地方産業には人件費削減、合理化を求めてくると思われますので、私共地方中小企業とそこで働く人々にとって大変難しい年となるのではと気念致しております。

戦後最長のいざなぎ景気の時の給与伸び率が201%に対し、現在の給与は99%であります。

この地域での大きな課題は、隣地木更津築地へと大型ショッピングセンターがこの夏か秋頃にオープンする事であります。この四市の既存の大型店は41店。その店舗面積はおよそ7万2千坪でありますが、新しいショッピングセンターは1社にて延面積およそ3万9千坪と言う巨大なものであります。単純に試算すれば、四市の人口35万人、その消費需要額は凡そ6千億円から7千億円であります。
イオングループは消費量の臨界点6%を担うと思われますので、その売上目標は凡そ400億円くらいと予測されます。

4市の中から凡そ1千店・・・一つの街が消滅し、築地に一つの新しい街が生まれるのであります。これは、大型店出店の歴史が証明いたしております。かつて日本には1万9千の商店街、商店会がありましたが、大型ショッピングセンターによって今は1万商店会が消滅して残るは8千商店会であります。昨年末のアンケートでは、この8千商店会の70%も消失寸前であると答えております。わずか6%ですが、大型店の出店にも関わらず、元気で、負けず繁栄しているとあります。私達会議所もまた、この6%の中の生き残りを目指して頑張って参ります。
この際、市民の皆様にご理解を賜りたい事は「なぜ、街づくり、街の活性化が必要かであります」君津市民9万1千人、働く人たち凡そ4万8千人、その70%の3万5千人は、私共中小零細企業で働き、市民の家庭生活を支えておられるわけであります。地場産業の育成、街づくりとは、70%3万5千人の働く場を守り、次の世代へと継承して行く大切な役目があるからであります。君津市民を支えているのは、中小零細企業と、そこで働く人達であります。
時代はすでに少子高齢化を迎え、昨日のニュースでは、日本は昨年1年で、人口は160万人減ったと報道されております。君津市の高齢者はすでに2万5千人に達しようとしております。間違えなく少子高齢化社会はマーケットも都市に収縮いたして参ります。これからの少子高齢化社会は、安心、安全で豊かなサービスが行きとどくコンパクトな街づくりが必要であります。

歩いて暮らせる街であります。街づくりが、成功するか、しないかは市民にやる気があるか、ないかで決まります。東北六県、北陸、中国、四国の地方は真っ先に街づくりを始めました。しかしその運動中に当時の大店法がなくなり、行政がこれを制御できなかったために地方市民はやる気を失って、全国から1万か所の商店会が潰滅しまちの資産価値も大暴落をして市町村の財政を悪化させたのであります。
九州中部では大型ショッピングセンターでなく、生産工場を誘致したのであります。生産工場は循環経済を起こし、大型ショッピングセンター誘致は、地方経済を循環させないで市民の働いた収入、利益がすべて県外へと流出してしまうからであります。幸い君津は、新しく鈴木市長が1昨年誕生してくれました。
鈴木市長は私達に、君津市に夢と誇りを持てる街づくりに、市民の知恵と努力によって税収の1%を任せるから、およそ1億8千万円の貴重な財源を託してくれました。私も役目柄、この事業に深くかかわって参りました。秘かに全国に数例ある同じような事業がどの様に活用され、成功しているのだろうかでありました。大方が申し込み2～30件、総額3千万位規模でありました。君津がこれと超えられるであろうかと心配いたして、市内の団体、グループで皆様の希望は柔軟に考え、支援しますからと説いて参りました。お陰様で年末の予測ですと申し込みは、他県の事例の2～3倍が期待できるようであります。君津には首都圏で最も優れた、立地、交通網の要衝にあり、大自然、人情ともに豊かな村でもあり、街であります。鈴木市長が望む、古くからの歴史、伝統から生まれた、村々に希少価値のブランドがあります。対岸大都市の客を呼ぶのに、近代化、拡大市街地を作る必要はないと私は思っています。
街づくり、村づくりとは、山古志村を拓き、日本の孤島をよみがえらせた、旅の巨人宮本常一は、街づくり、村づくりとは、他人の力を借りず、自分たちの手で、美しい豊かな村を作りなさい。そうすれば、全国から多くの人たちが集まってきますと説いております。他力本願の街づくりは、市民が働いて、稼いだ収入、利益を流出させて、市内に経済の循環が起こらないからであります。
「今年は大型店などに頼らず、君津のみんなで助け合い、分かち合い、ともに豊かに栄える夢を市民、行政、地権者、産業、経済人が一体になって」と繰り返して申し上げます。一人だけ、一社だけ頑張っても限りがあります。みんなで力を合せ、絆を太く、深くする事であります。よき友、よき仲間がたくさんいれば、必ず夢はかなうものであります。